

[八丈管内の遺伝資源の収集・評価・保存]
八丈特産園芸作物の遺伝資源の収集・評価・保存
～パッションフルーツの挿し木と定植時期の検討～

菊池知古
(島しょセ八丈)

【要 約】 八丈島の台農1号の挿し木と定植時期の組み合わせは、主枝および側枝の伸長が早く、早期の開花が期待できる、7月挿し木・10月定植が適する。

【目 的】

現在、八丈島で主に栽培されているパッションフルーツは「台農1号」であるが、挿し木時期・定植時期が生産者によりまちまちである。パッションフルーツは主枝で開花しながら側枝を伸長させ、順次基部に近い側枝からも開花する。開花・結実すると枝の伸長は緩慢になる。そこで、主枝の伸長を確保しながら側枝の1節目から着花させ、から枝（果実が着果しない部分の枝）を少なくする、効率の良い挿し木時期・定植時期の組み合わせについて明らかにする。

【方 法】

2013年6月、7月、8月、9月の中旬に赤玉土1：パーミキュライト1の用土に挿し木し、順次鉢上げし、それぞれを10月、11月、12月、1月の中旬に各10株ずつビニルハウスに定植した。主枝を高さ2mに垂直に立ち上げ、棚面に沿って誘引し、側枝をすだれ状に垂直に垂らした。主枝の伸長および節数は毎月測定した。開花調査は毎日行ない、主枝および側枝3本で開花を確認した日を記録した（図1）。

【成果の概要】

1. 挿し木の時期別に定植後の主枝の伸長を見ると、6月挿しでは10月定植の伸長が早く、次に11月定植・12月定植であった。1月定植は伸長が特に遅く、4月まで棚面の2mに達しなかった。7月挿しでは、この定植時期による差が顕著で、10月定植では年内（12月）に棚面に達したのに対し、1月定植では4月になっても主枝長は約1mであった。8月挿しは6月挿しとほぼ同様の結果であった。9月挿しは発根が遅く、10・11月は定植ができず、5月に棚面に達した（図2）。
2. 試験終了の5月下旬時点で主枝の伸長が良かったのは7月挿し・10月定植および11月定植であり、次いで8月挿し・10月定植であった。また、開花始が3月中と早かったのは6月挿し・12月定植および7月挿し12月定植であった。しかし、主枝および側枝3本で開花が見られた「4花開花」は8月挿し・10月定植、7月挿し・10月定植であった。4花以上開花した個体の割合は、7月挿し・10月定植で80%と高く、次いで6月挿し・10月定植の77%であった。いずれの時期に挿し木を行った場合も、1月定植では開花が顕著に遅れ、また、9月に挿し木を行った場合には、5月になっても主枝が棚面に達しなかった（表1）。これは、主枝が伸長しないうちに開花が始まったためである。
3. まとめ：7月挿し木・10月定植の組み合わせで栽培することにより、主枝が年内に棚面に達し、その後の伸長も早かった。また5月上旬には「4花開花」の状態になり、その後の開花の連続性も高く、下旬には8割の個体で4花以上が開花した。

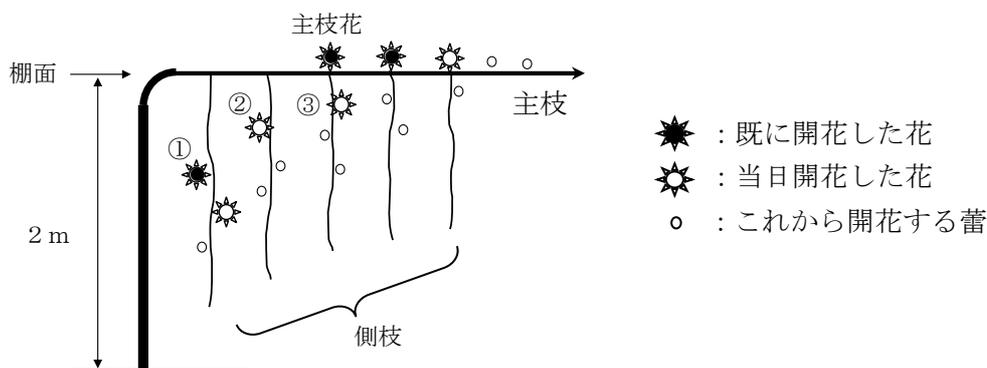


図1 「4花（主枝花+①②③）開花」測定方法の模式図

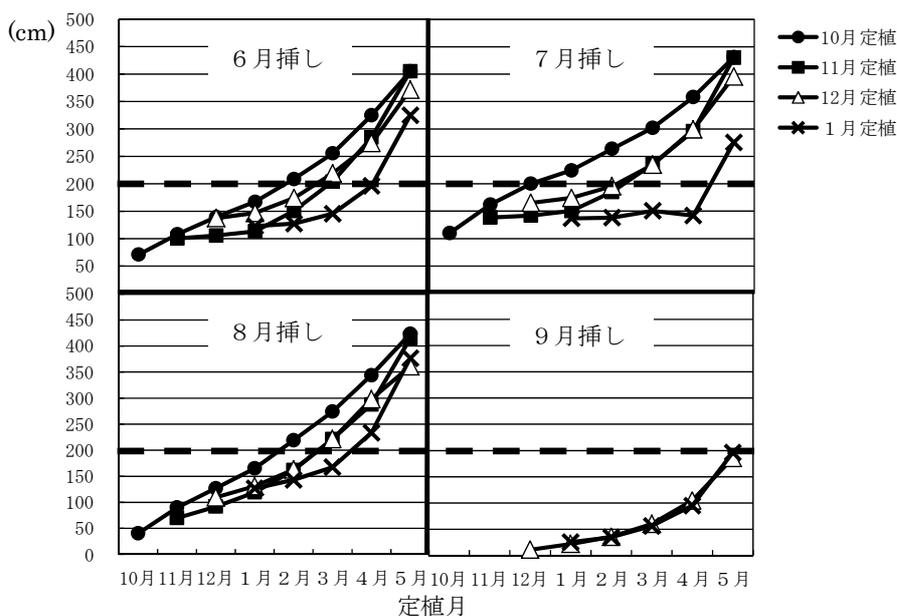


図2 定植後から5月下旬までの主枝の伸長状況

表1 挿し木・定植時期の組み合わせが主枝生育および開花に及ぼす影響

挿し木月	定植月	主枝生育 ^a		平均開花月日		4花以上開花 個体率(%) ^a
		長(cm)	節数	開花始	4花開花	
6月	10月	405	58	4/23	5/13	77
	11月	405	54	4/26	5/26	25
	12月	372	50	3/28	5/20	13
	1月	325	45	—	—	0
7月	10月	431	58	4/22	5/8	80
	11月	430	56	4/26	5/14	40
	12月	396	53	3/30	5/19	10
	1月	276	39	—	—	0
8月	10月	423	58	4/18	5/7	57
	11月	415	56	4/22	5/21	29
	12月	361	36	—	—	0
	1月	377	34	—	—	0
9月	10月	—	—	—	—	—
	11月	—	—	—	—	—
	12月	186	36	—	—	0
	1月	196	34	—	—	0

a) 5月26日測定